

## 小学校外国語「読むこと」における英語絵本

－教材としての価値と、学生による教材選定の視点の獲得について－

Picture Books for Reading in Elementary School English Classes –on the Value as the Teaching Materials, and What Students Learned for Selecting Books –

松井 千代

MATSUI Chiyo

キーワード： 小学校教員養成コア・カリキュラム 英語絵本 読み聞かせ

### 1. 主題設定の理由

小学校では2020年度から新学習指導要領が施行され、3年生及び4年生ではこれまで5年生と6年生で行われてきた「外国語活動」が、そして、5年生及び6年生では「外国語」科の授業が行われている。聞くことと話すことを中心とした英語に慣れ親しむ活動として行われていた外国語活動が中学年から始まることになった。そして、高学年では、聞くことや話すことに加えて、読むことと書くことも目標とする教科が設定された。この高学年の外国語科の変化については、特に、4技能の獲得を目指す中学校のような教科としての英語のイメージを持つ教員も多いだろう。しかし、教科になったからといって、中学校の前倒的に読むことや書くことを行うことは、これまで培ってきた音声中心からはじまる小学校で行うべき英語教育の流れを断ち切るようになってしまう恐れもある。どのような教材を使用し、どのような方法で読むことや書くことを指導していけばよいかを教員として考えていく必要がある。

学習指導要領の改訂を受け、文部科学省により小学校教員養成課程外国語コア・カリキュラム<sup>1</sup>が策定された。このコア・カリキュラムによって、大学生が小学校教員免許を取得するためには「外国語に関する専門的事項」に関する科目と「外国語に関する指導法」に関する科目の2科目を必修科目として履修することになった。この2科目だけで小学校の外国語活動や外国語を指導することができる教員を育成することは難しい。「専門的事項」や「指導法」に上げられている項目から内容を精選し、それらを効率よく教える必要があると考える。

小学校英語教育における背景的な知識を得るための「外国語に関する専門的事項」には、児童文学が学ぶべき項目として挙げられている。ここでは、英語絵本も児童文学に包括されるものの一つとして扱われている。しかし、読むことの指導に活用できる英語絵本につ

いては、「外国語に関する指導法」の授業と関連付けて、絵本の読み聞かせができる技術を身に付けさせるべきであると考え。実際に、今回の指導要領改訂前の2016年当時、文部科学省は小学校の新たな外国語科教育の補助教材として英語絵本 *In the Autumn Forest* と *Good Morning* の2冊を作成し、後にこれらをそれぞれ3年生と4年生のテキストに1課ずつ掲載している。英語絵本がテキスト教材の一部となったことは、ある程度まとまった英文で構成されている英語絵本が、小学校で行われる英語教材の一つとしてふさわしいと認められたからであろう。

本研究では、まず小学校で求められている英語を読むことの内容を確認し、これまでの小学校における英語絵本の読み聞かせ実践を概観することで、教材としての英語絵本の価値に注目する。そして、小学校教員養成課程に所属する学生が、児童に対する読み聞かせを経験することによって、教材として適切な絵本を選ぶ視点を獲得する姿を報告する。

## 2. 小学校学習指導要領における英語を読むこと

小学校英語教育における読むことについて、2020年度から施行される新学習指導要領外国語の目標や具体的な内容から何が求められているのかをみていく。以下は小学校学習指導要領に示されている外国語の目標<sup>ii</sup>である。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次の通りに育成することを目指す。

(1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。

(知識及び技能)

(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。(思考力・判断力・表現力)

(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

[下線部は筆者による]

読むことや書くことが目標に入り、外国語（英語）として教科になったことから、高学年の外国語科は中学校の前倒しであるように思われがちである。しかし、上記目標の下線部に注目すると、読むことについては「慣れ親しむ」こととなっている。中学校からの学習のように、英文の音読や読解ができるような知識や技能を定着させ、身に付いたかどうかを図るためのテストなどをしなければいけないということではない。また、音声で十分に慣れ親しんだ語彙や表現を「推測しながら読む」ことは、中学校で行われるような文中のすべての語彙や表現をすべて理解していることが求められる学習とは違うことがわかる。

次に、小学校における読むことの目標について、小学校学習指導要領解説<sup>iii</sup>から確認する。まず、学習指導要領には読むことの目標として以下の2点が挙げられている。

- ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。
- イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

〔下線部は筆者による〕

そして、これらの目標を達成させるために、読むことに関しては以下のような4つの言語活動を通して指導することとされている。

- (ア) 活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。
- (イ) 活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音する活動。
- (ウ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動。
- (エ) 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、絵本などの中から識別する活動。

学習指導要領解説によると、目標のアについては、言語活動の(ア)及び(イ)から、大文字か小文字かを識別することができるようになるとともに、どの文字がどのような読み方になるのかを理解していることが求められている。アルファベットを読むということを発展的に考えると、文字と音の出合わせ方としてフォニックス指導法<sup>iv</sup>の基本的な指導が5年生、6年生の教科書にすでに登場している。例えば、アルファベット d は名前としての読みは [di:] であるが、音としての読みは [d] と読む。そこで、dog と dish は同じ音で始まっていることに気づかせる指導をすることで、児童に文字と音

の結びつきを学ばせることができる。

目標のイについては、言語活動の(ウ)及び(エ)を通して学ばせることが求められていると考えられる。教科書やワークシートを教材として学ばせる例はこれまでもよく見られたが、ここではレアリア（言語教育の補助教材として用いられる実物、本物）や英語絵本が教材として挙げられている。コミュニケーションにつながる読みを生むためには、実際のコミュニケーションを想定しやすいレアリアや、現実に近い状況が描かれている絵本が教材としての価値を有していると考えられている。

### 3. 先行研究：読み聞かせ教材としての絵本の価値と絵本選書の重要性

#### 3. 1 読み聞かせ教材としての絵本の価値

英語絵本の読み聞かせについては、英語を習い始めた小学校中学年に対する実践が極めて多いが、又野（2014）<sup>v</sup>の小中連携を視野に入れた高学年児童への実践や、白須（2004）<sup>vi</sup>のような中学生への実践も見られる。教材としての絵本は、異文化理解や英語のリーディング能力を養うものとして、小学校高学年に対しても有用な教材となりうる。英語絵本の価値を確認するために、まずは絵本のどのような点が有用であるのかをエリス & ブルースター（2008）<sup>vii</sup>から見ていく。

エリス & ブルースター（2008）は、外国語学習で教師が絵本を使用する16の理由を次のように挙げている。以下は、筆者によって抜き出された各項目のキーワードである。

- ① 子どもの動機づけに向いているため、ことばを学習することに積極的になる。
- ② ストーリーを想像する体験が創造的能力を伸ばす。
- ③ 想像の世界と現実世界とを結びつける有効なツールとなる。
- ④ クラスでの読み聞かせは社会的な体験の共有の場となる。
- ⑤ 絵本は何度聞いてもあきないため、自然に繰り返し聞くことでことばを学習する。
- ⑥ 読み聞かせることで語彙や文法構造を導入・復習させることができる。
- ⑦ ストーリーを聞くことでリズム、抑揚、発音が意識できる。
- ⑧ 子どもがそれぞれ自分の発達段階に合わせた聞き方をするため、個々の興味・多様性に応じることができる。
- ⑨ 情緒的な知能を含めた様々な種類の知能を伸ばすことができる。
- ⑩ 著者や画家の国の文化を反映するため、異文化比較などができる。
- ⑪ 全体の意味を求めて、聞く、予測するなど、子どもの学習ストラテジーを伸ばす。
- ⑫ 日常、実用的なレベルを超えたテーマを持つことで、多様な考えや情感を楽しく体験し、身近な問題について考えるきっかけが与えられる。
- ⑬ 子どもにとって絵本はKrashen (1981) の  $i+1$ （能力をわずかに超えるレベル）<sup>viii</sup>を与えるため言語習得の理論に基づき絵本を教えることができる。

- ⑭ 他の教科内容と関連する内容の本を選ぶと学習の連続性が生まれる。
- ⑮ 絵本はそれ自体小シラバスを形成していて、教科書の新鮮な代替教材として扱うことができる。
- ⑯ 絵本から言語の基本的な機能、語彙、文法、学習スキルを学び、中学校の基礎固めとなる。

これらの中には、学習指導要領の外国語科における英語を読むことに関連する内容も見受けられる。⑤については、絵本の中でよく繰り返される語彙や表現を何度も聞くことで、それらの音声で十分に慣れ親しむことに加えて意味が分かるようになるという点で関連する。木原（2017）<sup>13）</sup>は、小学校での読み聞かせに使用する絵本で重要なこととして、「単純な文構造で同じパターンの文が繰り返し使われているもの」「リズムがおもしろく、児童がいたくなるようなもの」を挙げている。

⑩の全体の意味を求めて「予測する」ことは、学習指導要領にある「推測しながら読むこと」と通じる。絵本はこの点においても学習指導要領の目標を達成させるための教材になりうる。また、⑫、⑬、⑭などは、選ぶ絵本によって満たすことができたりできなかったりするが、適切な絵本を選択することで児童は身近な問題について考えたり、言語能力を高めたり、総合的な学びを得たりすることができるだろう。

これらに加えて、絵本が優れた教材となる理由を長田（2018）<sup>14）</sup>が示している。長田（2018）が小学校英語指導者に行った質問紙調査によると、適切な絵本選定を行えば、言語面だけでなく情緒面でも子供を成長させることが期待でき、目的や場所に合った言語使用を身に付けさせることができると述べている。

こういった教育を行うことができる絵本は、小学校英語教育において価値のある教材であると捉えることができるであろう。

### 3. 2 読み聞かせ教材としての絵本選書の重要性

先に述べたような教育を行うために、絵本の選定は重要であると考えられる。

絵本のテーマや言語的に難しい、発達段階に合わないものを選んでしまうと、児童は興味をなくしてしまう可能性がある。このように絵本の選書の重要性について報告している実践がある中で、選書に関する貴重な報告が見られる。松本（2017）<sup>15）</sup>は、文部科学省が英語活動において求めている絵本の条件と、第二言語習得におけるインプットとしての絵本に求められている条件を加味した10の選定条件（試案）を以下のように示している。

- ①絵本の長さ
- ②英語が平易であること
- ③英語に特徴的な音声やリズムがあること

- ④絵本作品として優れていること
- ⑤遊びの要素があること
- ⑥他教科との融合をしやすいこと
- ⑦児童参加がしやすいこと
- ⑧物語構造が繰り返し構造、または起承転結型であること
- ⑨テーマを持つこと

試案であることから、絶対条件ではないが、筆者の経験則からもおおむね賛成できる条件である。

### 3. 3 学生による読み聞かせの実践と、絵本選定に関する本研究の調査について

筆者も、絵本の教材としての価値を高く捉えており、絵本の活用は児童に対して言語面、内容面及び情緒面の教育に貢献すると考えている。そのため、筆者は小学校教員養成課程に在籍する学生に、絵本の読み聞かせの実践をさせたり、絵本の選書をさせたりしている。

学生は、実際に児童に対して絵本の読み聞かせをし、児童の反応を得ることで次回読み聞かせをする絵本を自ら選び、再び児童に対して読み聞かせをする。こういった経験の中で、学生は読み聞かせに適した絵本を選ぶ基準を、自らの中に確立していつているように思われる。

そこで、上記のような手順の中で学生が獲得した教材選定の基準を、松本（2017）に述べられている選書の条件と比較し、一致している点を確認しようと考えた。また、学生の読み聞かせの経験が絵本の選定にどのように影響をしているかを分析しようと考えた。

## 4. 学生による教材としての絵本の分析

小学校教員を目指す学生による英語絵本の読み聞かせの実践を、近隣の小学校に併設されている放課後教室へ通う児童に対して、2019年7月と11月の2回行った。学生は7月の読み聞かせ後、11月の読み聞かせで使用する絵本を選定するために、教材としての絵本の分析を行った。

### 4. 1 教材分析の方法

7月の読み聞かせ実践の後、11月の読み聞かせ実践の準備として、どの本を読み聞かせるかを学生に考えさせる目的で絵本の分析をさせた。

- 分析対象： 読み聞かせ用の絵本 75冊（大型絵本と標準サイズの絵本）。
- 分析時間： 2019年10月、後期科目「専門演習1b」第4回の授業内45分間
- 分析者： 「専門演習1b」を履修している学生10名
- 7月の読み聞かせ実践の概要：

低学年、中学年児童がほとんどをしめる放課後教室で読み聞かせをした。この日の出席者は1年生8名、2年生9人、3年生11人であった。Eric Carl作 *From Head to Toe* を各ページに出てくる動物ごとに役割を決め、役割に応じてそれぞれのページを読んだ。読み聞かせは寸劇風のものとなった。この読み聞かせに参加した10名の学生が、11月の読み聞かせのための英語絵本を選んだ。

○ 分析手順・方法：

- ・ 学生は、書架に並べられている大型絵本や標準サイズの絵本を、一人ずつ席まで持ってきていき読み始める。
- ・ 絵本を読み終えたところで、付箋に「この絵本で児童が学べること」を書く。さらに、絵本の評価を◎△の3段階で行い、その理由を書く(図1)。
  - 評価の基準：「児童にとってわかりやすいか」「児童が楽しむことができるか」という単純なものよい。
  - 評価の理由：「どういったところがわかりやすいか」「どういったことが楽しくおもしろいか」という視点でよい。
- ・ 物語のテーマや描かれている絵、使用されている語彙や英語の表現などについて自由にコメントを記入する。
- ・ 絵本に付箋を貼り(図2)、別の絵本を読む(以下繰り返し)。

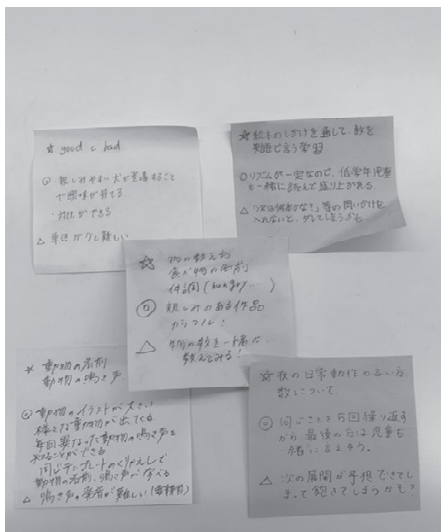


図1 学生が記入した付箋

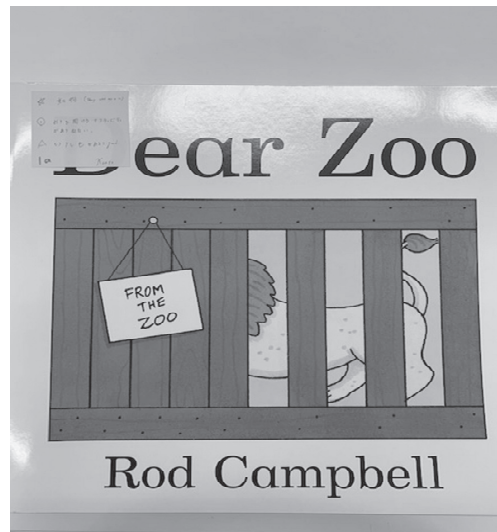


図2 絵本に貼られた付箋

#### 4. 2 分析結果と考察

読み聞かせ絵本の分析結果は表1の通りである。

表 1 学生による絵本の分析結果

絵本のタイトル	学生	★何が学べるか	評価◎の理由	評価○の理由	評価△の理由
1a Dear Zoo	K	動物, They sent me...	扉を開けるアクティビティがありおもしろい。		もう少し色があるとgood.
1b Dear Zoo	S			しかけがあり良い、文法の同じ表現なので難しくない。	
2 AT THE ZOO	A	会話表現、動物の特徴	絵のタッチがかわいい		活用の仕方に工夫が必要。
3 Time for Bed, Fred!	N		FredちゃんのStoryが面白い。		
4 Three Little Kittens	A	感情を表す言葉	ネコの表情が豊かで楽しい。字が大きくて見やすい。		内容が理解しづらい。
5 GO AWAY, BIG GREEN MONSTER!	O	体の部位	表紙がキラキラしていてかわいい。仕掛け絵本でページをめくるのがワクワクする。		発音が難しそうな単語がある。
6 This is the BEAR	K	説明する文章	絵と文が別になっていて分かりやすい。		少し難しい。
7 MY FIVE SENSES	I	体の部位の英語名、どんな時にその部位を使うか。		クイズ形式で進められる。	少し分が長いかも。
8a I Love Animals	O	動物の名前	イラストがかわいい、筆で一つ一つ書いたみたい。		難しい単語もある。
8b	S	動物の名前		字が大きい。文が簡単。	
9a Polar Bear, Polar Bear, What Do You Hear?	T	動物の名前、鳴き声。	動物のイラストが大きい。様々な動物が出てくる。同じフレーズの繰り返しで動物の名前、鳴き声学べる。		鳴き声の発音が難しい。
9b	O	動物の名前、鳴き声。"What do you hear?"の文法	絵がシンプル。文が少なく読みやすい。		動詞が難しい。
10 What a Bad Dog!	A	good, bad	親しみやすい犬が登場することで興味を持てる。対比ができる。		単語が少し難しい。
11 Kipper's Diary	S			文字が大きく、文も単純で読みやすい。曜日の学習に良い。	
12 Ten Fat Sausages	I	絵本のしかけを通して、数を英語で言う学習		リズムが一定なので、低学年も一緒に読んで盛り上げられる。	「次は何の本かな？」などの問いかけを入れないとダレてしまうかも。
13 UP, DOWN, AND AROUND	T	野菜の名前、育ち方。Up, downの意味	生活科の内容と合わせて指導できる。繰り返し表現がある。		最初と最後に難しい単語がある。
14 A Cheese and Tomato Spider	R	色、食べ物、魚	上下分かれている。字、絵が大きい。		上をめくってから下をめくらないと意味がない。
15 GOODNIGHT MOON	R	動物の名前、色。	カラフルなページと白黒なページがある。同じ表現が繰り返されている。		少し長い。
16a THE VERY HUNGRY CATERPILLAR	R	食べ物の名前。曜日、数、虫の名前。	しかけがある。みんなが知っている話。色彩豊か。イモ虫が成長する過程。		高学年にはジェスチャーをつけずに読み聞かせ、絵から状況を読み取らせる。
16b	Y	物の数え方、食べ物の名前、体調。	親しみのある作品。カラフル！		物の数を一緒に数えてみる！
16c	O		仕掛け絵本になっているので、低学年も興味を持ちそう！		
16d	N		みんな話を知っている。知らなくても絵でわかりそう。		
17a A Teddy Bear	K	顔の部位	カラフルで楽しめる。くまかわいい。		簡単すぎる。
17b	Y	体、顔のパーツ。数字。	カラフル。低学年でもわかりやすい。		高学年には簡単。
18 Today Is Monday	I	曜日の英語名		歌のように、リズムに合わせて覚えられる。	かなり記憶力が必要。
19a FIVE Little MONKEYS jumping on the bed	N			チャンツを利用できる。	
19b	S	夜の日常動作の言い方、数について。	同じことを5回繰り返すから、最後の方は児童も一緒に言えそう。		次の展開が予想できてしまつて、飽きてしまうかも。
20a A Beautiful Butterfly	K	色	絵がうまい。字が大きい。簡単な表現に歌もついている。		少し長い。
20b	R	色, want to, 接続詞, butterfly, have to, 果物, 野菜の名前	色が英語のところにもその色になっている。絵がきれいな。1ページ丸々同じ色。		高学年には簡単。



準備した読み聞かせ用絵本 75 冊のうち、コメントがついた絵本は 20 冊と少なかった。これは、分析のための時間が 45 分しかなかったことが理由であると考えるが、書架の前ですでに学生が選定する姿が見られた。学生は絵本を手に取り、さっと目を通した段階で、絵の雰囲気や文字数などから児童にとって好ましくない、または難しいと判断した本を選ばなかったようであった。有名な本や、学生から見て絵がかわいいなど好ましい雰囲気の本については、学生相互で共有していた。そういった本には付箋が複数ついていた。

- ①絵本の長さ
- ②英語が平易であること
- ③英語に特徴的な音声やリズムがあること
- ④絵本作品として優れていること
- ⑤遊びの要素があること
- ⑥他教科との融合をしやすいこと
- ⑦児童参加がしやすいこと
- ⑧物語構造が繰り返し構造、または起承転結型であること
- ⑨テーマを持つこと
- ⑩主人公、登場人物の設定が魅力的であること

図3 松本 (2017) による絵本選定条件 (試案)

学生の分析には、松本 (2017) で示された条件に当てはまるコメントが見られた。絵本を評価として指示した「児童にとってわかりやすいか」「児童が楽しめるか」という単純な基準に対しては、②の英語の平易さに関して「簡単」「少し難しい」等のコメントが見られた。◎や○という良い評価の理由の中には、条件③、⑤、⑥、⑦、⑧、⑩にあたるコメントも見られた。

有名な絵本である *The Very Hungry Caterpillar* (通し番号 16、4 名が評価) の評価コメントを例に挙げる。表 1 の 16a、学生 R は、この絵本を通して学ぶことができることとして「食べ物の名前、曜日、数、虫の名前」と英語の語彙を挙げている。そして、この本の評価を◎とし、その理由として「しかけがある。みんなが知ってる話。色彩豊か。芋虫が成長する過程。」と述べている。仕掛けがあることに上記条件⑤の「遊びの要素があること」を見だし、芋虫の成長過程から、条件⑥の「他教科との融合をしやすいこと」で理科との融合の可能性を考えている。さらに、この学生は「高学年にはジェスチャーをつけずに読み聞かせ、絵から状況を読み取らせる」という記述も残している。中学年と高学年とでは絵本の用い方に変化を持たせ、発達段階及び学習段階に応じた読み聞かせのアイデアを考えている様子が見られる。

もう一つの例として、*Up, Down, And Around* と (通し番号 13) という絵本に対する学生のコメントを見てみる。学生 T は、この絵本で「野菜の名前、育ち方。Up, Down の意味」

を学ばせることができると述べている。そして、この本の評価を◎とし、その理由を「生活科の内容と合わせて指導できる。繰り返す表現がある」としている。これらは、条件⑥の「他教科の融合をしやすいこと」と、条件⑧「物語構造の繰り返し構造がある」ことに当てはまる。他教科のなかでも「生活科」と考えたことから、学生Tはこの絵本を低学年に読み聞かせるというイメージをもっていることがわかる。

学生Rや学生Tのような読み聞かせに関する考え方は、松本（2017）の試案にある条件に当てはまるような絵本の評価コメントには当てはまらない、「発達段階に合わせた読み方の工夫」である。児童への読み聞かせ実践の経験のある学生だからこそ、このような見方ができるのではないかと考えられる。

## 5. まとめ

数多くの英語絵本が出版されており、その内容やデザイン、そして使用されている言語の難易度も様々である。そのため、小学校の授業で教材として使用する絵本を、教育効果を考えながら適切に選定することによって、児童の学びを豊かにすることができる。英語絵本は小学校外国語活動・外国語の教材として高い価値を有していると考えられる。

その価値を見極め、適切に活用することができる教員の育成はこれから重要になるように思われる。本稿における分析では、児童に対する読み聞かせ実践を行ったことにより、学生が絵本の価値を見出す視点を得たことについて言及した。しかし、児童に対する読み聞かせ実践の機会が持てなかったとしても、筆者は、小学校教員養成課程における英語の授業において、学生に英語絵本を読ませ、教材として絵本を分析させるといった授業を行ったが、今後もこれを続けていきたい。

【付記】本稿は、2019年度愛知淑徳大学研究助成を受けて実施した「小学校における英語絵本を用いた、英語の「読む」力の指導法に関する研究」（特定課題研究 19TT02）の一部である。

- 
- i 小学校教員養成課程外国語（英語）コア・カリキュラム  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/002/siryo/attach/1388110.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/002/siryo/attach/1388110.htm)
  - ii 文部科学省（2017）小学校学習指導要領
  - iii 文部科学省（2017）小学校学習指導要領解説
  - iv フォニックス指導法とは、文字のつづりと発音を関連付けて教えることで読む能力を育てるための1つの方法として日本でも取り入れられている。
  - v 又野陽子（2014）「小中連携を視野に入れた小学校外国語活動における英語の絵本の活用方法：絵本 *The Very Hungry Caterpillar* を教材として」中国地区英語教育学科研究紀要 44, 81-90.

- 
- vi 白須康子 (2004) 「中学校の英語教育における絵本・児童文学の活用」 神奈川大学人文研究 154, 83-111.
- vii Ellis, G., & Brewster, J. (2008) 『先生、英語のお話し聞かせて！小学校英語「読み聞かせ」ガイドブック』 (松川洋子監訳、八田玄二・加藤佳子役) 玉川大学出版
- viii Krashen(1981)の  $i+1$  とは、学習者の現在の知識レベルを  $i$  とし、その能力より少しだけ上のレベル ( $+1$ ) のインプットを与えることを意味する。そうすることによって、言語が習得されるということを意味する。
- ix 木原美樹子 (2018) 「小学校英語教育における絵本の活用について：絵本の選び方を中心に」 中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要第 50 号, 55-62.
- x 長田恵理 (2018) 「小学校外国語教育における絵本の活用—指導者が選ぶ絵本」 國學院大學人間開発学研究第 9 号, 39-56.
- xi 松本由美 (2017) 「小学校英語教育における教材用英語絵本選定基準の試案—絵本リスト作成に向けて—」 玉川大学リベラルアーツ学部研究紀要第 10 号, 7-16.